

## 意見交換会の状況(中間報告)

### 1. 意見交換会実施の概要

#### (1) 湖南・甲賀環境協会勉強会

##### [目的]

- ・ 中間とりまとめの内容を説明、改善に向けた課題について意見交換
- ・ 分かり易い「手引き」作成のために必要な事項（「手引き」で記載が必要な事項、共通に必要なとなるデータ等）について意見交換  
（その他：試行算定の協力事業所の募集）

[日時] 2012年7月24日（火）15:00～

[場所] 南部環境事務所4階会議室

[参加者] 湖南・甲賀環境協会及び所属企業より24名（12社）

#### (2) その他の事業所との「中間とりまとめ」意見交換会

※平成24年8～9月に開催予定。

### 2. 意見交換会(湖南・甲賀環境協会勉強会)で挙げられた意見

#### (1) 貢献量評価の目的

- ・ 製品の貢献量は排出量のオフセットまではできないのではないかと。排出量と貢献量を別々に示すほうがよい。
- ・ 事業者のインセンティブを高めるためにもオフセットができる制度にすべきである。

→視点：自社の排出量と貢献量との関係について、追加して示すべき考え方などはないか

- ・ 「評価」は他者からされるものであって自分でするものではないので、「貢献量評価」との表現は違和感がある。

→視点：「貢献量評価」の表現は妥当か

#### (2) 評価対象製品

- ・ 創エネ製品、省エネ製品以外のものも対象としてよいか（既存のコンクリートのパイプを塩ビのパイプとすることで輸送時や工事における排出削減につながる等）。

→視点：創エネ製品、省エネ製品以外の製品、サービスを行う事業者向けに、追加して示すべき情報はないか

- ・部品・素材メーカーで非常に汎用的な製品を製造している場合、最終製品が多岐に渡り、特定が難しいため、貢献量の算定は困難である。

→視点：最終製品の用途が特定できない場合について、貢献量評価ではどのように取り扱うべきか

### (3) 評価対象の事業活動

- ・企業全体で貢献量を算定しているが、滋賀県内だけの数値は算定していない。
- ・研究開発については、滋賀県内で研究開発をしているが、生産は海外というものも多い。

→視点：計画書制度での記載方法について、追加して示すべき情報はないか

### (4) ベースラインの設定について

- ・企業間でベースライン等の算定条件がばらばらでは貢献量の数値を出してもあまり意味がないのではないか。また、算定の基準が示されなければ、事業者側でもどのように設定してよいか、わからない。業種別に算定方法や基準が示されるとよい。
- ・一般の人には、貢献量も数値のみで見られやすいので、算定の基準は揃えた方がよいのではないか。一度提出した後に再提出が可能であれば（出揃ってから、並びで修正できれば）よいのだが。
- ・ベースラインの基準は揃えた方がよいという考え方がある一方、事業者行動計画は自主目標であるため、例えば、自主基準では2005年の自社製品との比較等とすることを示すというやり方も考えられるのではないか。
- ・ベースラインとしてある時点で固定したものをいつまでも使い続けてよいか、どの時期に更新すべきか難しい。

→視点：貢献量を公表する際に、事業者間で算定条件やベースライン設定が不揃いであることで課題はないか

→視点：算定条件やベースライン設定など、追加して示すべき情報はないか

## (5) 部品・素材の評価

- ・部品を10%小型化したら、原料・加工・使用段階等の排出量がそれぞれ10%削減と仮定した非常に簡易な方法で算定したことがある。
- ・部品の小型化や軽量化は輸送時等のCO<sub>2</sub>削減につながることを考えられるが、「〇%軽量化」をすぐに「〇%CO<sub>2</sub>削減」につなげることは難しいであろう。事業者行動計画ではCO<sub>2</sub>削減だけでなく「〇%軽量化」等の記載でもよいこととしてはどうか。

→視点：計画書制度の柔軟な運用について、追加して記載すべきか

- ・非常に多くの部品の貢献量を算定してもCO<sub>2</sub>換算ではわずかということになるとモチベーションダウンになりかねない。
- ・部品メーカーの場合、削減量はユーザーの使い方次第の部分もある。また、現在の貢献量を一度算定することができたとしても、貢献につながる技術革新はなかなかないため、(製品の性能について)毎年数値を改善していくことは難しく、毎年同じ内容になりかねない。

→視点：算定条件やベースライン設定など、追加して示すべき情報はないか

- ・最終製品の貢献量から寄与率をかけた、部品・素材メーカーの自社の貢献量は公開することが会社にとってよいかどうかわからない。公にしないことがある。
- ・貢献量の按分は公平なように見えて問題が多いのではないか。
- ・貢献量の按分において、事業者行動計画の対象外の事業所の分が漏れるのではないか。

→視点：貢献量を按分することについて、追加して記述すべき考え方などはないか

## (6) その他

- ・環境省や経済産業省においても基準が検討されているが、複数の基準があると対応しづらいため、基準は一つにしていきたい。

→視点：算定方法は統一した方がよいとの意見に対して、追加して示すべき考え方などはないか